

広報
第59号

上野東部により

2024年12月1日

発行

東部地域住民自治協議会

総務広報部会

伊賀市緑ヶ丘東町920

上野東部地区市民センター内

TEL・FAX 24-3999



あつ
まれ!

「親子の集い」

地域みんなで子育てを

仲間づくりや情報交換をおこない、
地域の方同士が顔見知りになる交流の場です。

残暑厳しい中、9月21日(土)午前10時から伊賀市民体育館で、東部地区民生委員児童委員協議会主催の「親子の集い」が開催されました。対象は、東部地区にお住まいの小学3年生以下とその家族で、今年は144名の親子が来場されました。

みんなで楽しく遊びながら、仲間づくりや情報交換を行い、地域の方同士が顔見知りになり「交流の場」となる目的で2014年から毎年開催してきました。

会場は、「コローリング」、「ストラックアウト」、「ボールボードゲーム」、「健康相談コーナー」、「バルーンアート」、「キャタピラー遊び」、「押し花コースター」、「お菓子コーナー」を廻って楽しみました。

毎年好評の「バルーンアート」コーナーへは、開会式が終った後、親子連れが一目散に駆け寄り、自分の好きな風船を探してゲットしていました。

今年初めての「押し花コースター」のコーナーは、大

盛況でした。親子で、花の色や並べ方などを工夫して、楽しんで作っている姿が多くみられました。お気に入りの作品ができたので、「家で活用します」と言っていました。

保健相談コーナーでは、久しぶりに身長を測定して大きくなったと喜んでいる子どもたちがいて、また保健相談もあり、役にたちましたと話していました。

最後の「お楽しみタイム」では、音楽療法として童謡などをみんなで元気よく歌って、楽しい時間をすごしました。

東部民児協の西口会長は、暑い中、大勢の方に来ていただき、子どもさんとのふれ合いができるよかったです、「来年もまた来ます」との声にはげまされ、今後も続けていきたいと思いますと話していました。

〈取材：松原 秀明〉



西口会長

第17回東部地域防災フェスタ



10月27日(日)、秋晴れの中、東部地区市民センター及び伊賀市民体育館で、「第17回東部地域防災フェスタ」を実施しました。一般の方も参加しての防災訓練が行われました。

16の自治会から258名(内子ども:30名)が参加されました。

今回の防災訓練は、住民の自主防災の意識を高めていくという目的で伊賀市及び伊賀消防署の全面的協力のもとで行われ、訓練が実施されました。今回の防災訓練の特徴として、能登地方の地震・豪雨災害の復興支援に行かれた消防署員の方のお話を聞き、決して他人事ではなく、いつ我が身に起こるかも知れないとの自覚を持ち、家族また地域全体での防災意識を高めていくことの大切さを強調されていたように感じられました。子ども、大人が一体となり、イザというときのために体験かつ継続的に防災訓練していくことの重要性を痛感した1日でした。



消防署員の震災救援活動報告

2024年1月1日発生の能登地方の震災の救援に行かれた署員の方の講話を聴きました。

いたに よしたか

井谷佳史さんが、災害の現場で実際に起きていたこと、被災された方々の様子、実際に救援にあたっていて感じたことなど、写真や動画を使いながら詳しくお話しされました。



煙道体験

煙からの脱出は、低い姿勢で壁にそって、ハンカチかタオルで口を覆い、速やかに抜けてください!

実際にテント内に入ってみると、まったく先が見えなくなるようで、体験した子どもの感想は「何も見えない中で声だけ頼りに前へ進んだ」でした。なかなか、出てこなかった子どももいました。

毛布で担架タイムトライアル

専用の担架が不足する被災地で役立つ、身の回りの物を使った簡単で機能的な担架の作り方を教えていただきました。ケガ人を安静に運ぶことの重要性や、足の方向に運ぶなど細かい注意事項の説明がありました。

AED使用体験

イザという時、人命救助に役立つAED(自動体外式除細動器)の使用法を学びました。AEDを使用する前に必要な心肺蘇生の方法(胸部圧迫など)について詳しく説明を受け、実際に人形や練習器を使って使用法を体験しました。

水消火器的当てゲーム

消火器の使い方の手順や燃えている物への正しい狙い方を、的当てゲームとして楽しく学びました。同時に、消火器の取り扱い上の注意事項の説明も受けました。

防災用具展示・炊き出し実演

家庭内での備えや自治会の備品購入の参考にしていただく為の様々な防災用具の展示がありました。

また、炊き出しの実演を行い、参加者に持ち帰っていただきました。

最後に、防災防犯交通安全部会のみなさま、伊賀消防署、そして関係部署のみなさま、いろいろ工夫して新しい体験訓練を経験させていただきました。地域全体に広めていく使命感を痛感しました。ありがとうございました。

防災用具展示・ 炊き出し実演



毛布で担架を作ろう



AED使用体験



水消火器で消火体験



新鮮市の開催も!

防災訓練で疲れた参加者は、新鮮な美味しいパン、野菜、美味しいクッキーをたくさん買い込んでお家へ帰っていました。パンをたべて、お家で防災訓練の話で和んでくれましたか。

〈取材：國井 圭己〉



学校だより

上野東小学校3年生

上野東部地区市民センター施設見学会 開催



説明をきく児童たち

令和6年7月12日（金）上野東小学校3年生が参加して、上野東部地区市民センター施設見学会が開催されました。

普段から子どもたちとも深く関わってくださっている場所ですが「どんな人たちがどういった活動をしている場所なのか」などを分かりやすく説明していただき、子どもたちも一生懸命話を聞きながらメモを取っていました。

この施設見学会で東部地域住民自治協議会のシンボルマークのように「みんなが手と手をつなぎ、心を一つにして発展する」地域づくりに子どもたちも積極的に参加するようになると強く感じました。



東部地区シンボルマーク



〈取材：山岡 可愛〉



愛染院故郷塚

(伊賀市指定史跡)

東部地域には、いくつかの史跡があります。今回は上野農人町の愛染院芭蕉故郷塚を紹介いたします。

松尾芭蕉は、元禄7年(1694)10月12日、午後4時頃、大坂の旅宿・花屋仁左衛門邸(現大阪南御堂筋)の貸屋敷で享年51歳で永眠されました。辞世の句に「旅に病んで夢は枯野をかけめぐる」があり、やり残したことの多さに無念な思いでいた芭蕉の切なさを感じることができます。

芭蕉の遺骸は遺言によって、その夜のうちに門弟たち10名によって川舟に乗せられ、淀川を遡り、翌日に膳所の義仲寺へと運ばれました。そして14日の夜に門弟およそ80人が見守る中、木曾義仲の墓の隣に埋葬されたと伝えられています。

兄の半左衛門のもとに芭蕉の遺書(10月10日付)が届きますが、事態を知ったのは芭蕉が旅立った後のことでした。早速、伊賀上野の門弟・服部土芳と貝増卓袋が義仲寺へとかけつけ、二人は芭蕉の形見として遺髪を持ち帰り、松尾家の墓所の傍らの藪かけに埋め、後に「故郷塚」を築いて石碑を立て、芭蕉の遺徳を偲びました。

塚の碑には「元禄七甲戌年(1694)芭蕉翁桃青法師 十月十二日」(服部嵐雪筆)とあり、芭蕉が没した翌月に石碑が建立されたと伝えています。

嵐雪は芭蕉追善のため元禄7年(1694)11月13日、江戸から京都の落柿舎に入っていますので、その際には故郷塚にも立ち寄って、芭蕉追善の石碑を建てたものと思われます。

しかし遺髪が納められた塚は、元文3年(1738)、現在の場所に移されたと伝えています。芭蕉遺髪を納めた塚は、もとはどこにあったのでしょうか。



故郷塚



芭蕉翁供養塔



愛染院山門



愛染院の句碑



愛染院本堂

愛染院は遍光山願成寺という真言宗派のお寺で、院号を愛染院といいます。本尊に愛染明王をお祀りすることから、愛染院の名で知られています。

(文献資料 伊賀暮らしの文化探検隊レポート参照)

〈取材：縄手 稔 写真：安場 豊〉



暑い日でじがみんなで楽しみました!

2024 緑ヶ丘本町子ども夏祭り

35度を超える猛暑日が続く中、8月3日（土）午後6時から緑ヶ丘本町「運動遊園」において「子ども夏祭り」が緑ヶ丘本町青年会主催、自治会など各団体の協力で盛大に開催され、多くの来場者でにぎわいました。

「FIVE」のみなさんによる踊りでスタート。「100円くじ」「スマートボール」「スーパーボールすくい」「景品引き」「ダーツ」などのゲームや、「かき氷」「焼き鳥」「生ビール」の主催者屋台、「たこ焼き」「からあげ」などのキッチンカーに子どもたちの笑顔の行列ができました。子どもたちの夏休みのひとコマのよい思い出となりました。

（取材：國井 圭己）

編集後記

今年の夏は暑かったです。編集後記を書いている今は10月下旬ですが、数日前まで夏日は続き、今年は秋が来ないのかな?と思うほど長い長い残暑でした。そんななか発表された日本気象協会の今シーズンの冬予報は『極端な暖冬となった昨シーズンと比較すると、冬らしい寒さの日が多くなる』とのことでした。寒いより暑いほうがいい!と、断然夏派の私ですが、今年の夏でその思いは大きく揺らぎ、どんどん暑くなっていく気候に不安を感じていたので、この予報を聞き少しほっとしました。これから来る冬らしい寒さに備えたいと思います。

本年も東部だよりをご覧いただき、誠にありがとうございました。（野村 真紀）

東部自治協
ホームページは
こちらから▼

